

ブライアン・リーマー博士 (Ph. D.)
マサチューセッツ工科大学
エイジラボ (AgeLab)、研究科学者



ブライアン・リーマー博士は、マサチューセッツ工科大学エイジラボの研究エンジニアであり、ニューイングランド大学交通センターの次長でもある。

彼の研究は、生理信号、視覚的行動モニタリング並びに全体的なパフォーマンス指標を利用して、動的環境におけるヒトの行動を測定し理解するための新しいモデルと方法を開発することである。

ライマー博士は、研究者及び学生から成る学際的なチームを率いており、操作環境の複雑化に対して運転者がどのように反応するかを理解し、不注意運転や自動化やその他車載技術と関連した次世代の人間工学的課題に対するソリューションを発見することに焦点を当てている。

彼は、車載用インターフェース、安全システム、ポータブル技術、異なる種類・レベルの認知的負荷によって、生涯を通じて運転者がどのように影響を受けるかに焦点を当てた研究を指導している。

この研究はまた、糖尿病、心血管疾患、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、自閉症といった医学的障害の影響も調べている。

ライマー博士は、査読付き学術誌やコンフェレンスに、交通に関する 80 を超える論文を発表している。

ロードアイランド大学院卒 (産業・製造工学博士)。